



御清文庫

三十七

早文書集

30

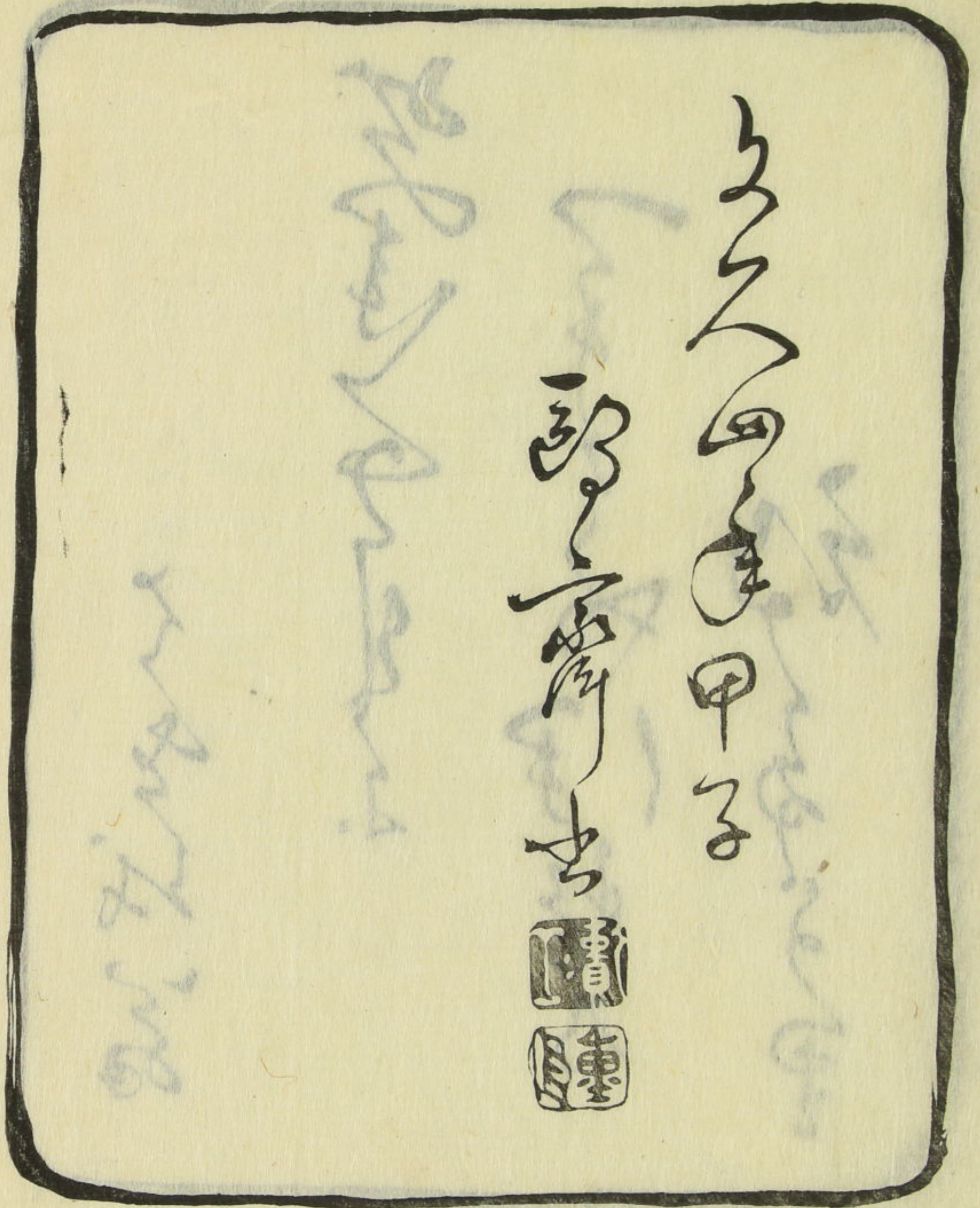
5
1139
30





とくく回甲子

印之齊也



表六章

五の江城一耕一松うをふ

嵩山

打と畑をまゝとてえぬ 喜

如白

鶴とあつたまゝの雪まゝて

氷壺

そふまひひとつらぬあぢ物

山

小軒短う夢ひ始をたやひい

白

然世のうまハ屋乃入口

壺

全

新唐子 甲子と元の

春とむらさき

ちろつとさき年とくりて春と先

氷壺

かまむ日さしふゆふ木杓

氷白

川魚のりつとさきとさきとさき

漁藻

竹のさきとさきとさきとさき

魚玉

映花のさきとさきとさきとさき

吾柳

神をさるも葉乃咲了る

波洞

表六章

梅の花雪夜日さけりさき分梨

氷壺

柳の苞と枝りりりりりり

花兒

節小袖若竹の若さきとさき

壺

むき入の林と何の穂とさき

兒

丑満とさき八月村海とさき

壺

志月むせの言をつむむの言

兒

全

芝原へ様りつとさきとさきとさき

葉使

さうさうり 唄ふ 幸里の勢

水壺

うら 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

史

角 角 角 角 角 角 角

壺

さ 侍 侍 侍 侍 侍 侍

史

木 屏 屏 屏 屏 屏 屏

壺

全

柳 書 書 書 書 書 書

其 壺

廿 四 探 探 探 探 探

水 栞

鏡 あり あり あり あり あり あり

水 壺

神 池 池 池 池 池 池

壺

月 又 又 又 又 又 又

栞

赤 糸 糸 糸 糸 糸 糸

壺

全

毎 々 々 々 々 々 々

水 壺

う ら び び び び び び

波 壺

赤 糸 糸 糸 糸 糸 糸

如 白

月 之 之 之 之 之 之

壺

月 之 之 之 之 之 之

壺

新米の香のちつとあるさうり

全

白

昔折やあめのある田、まゝあるさうり

氷壺

古ふくくくかき京官の川事

文里

幸籠の姫の甲入 筆をきて

文種

白ひ袋の居籍もかきさうり

壺

右近の采々 席下もゆり月

甲

心珠のうきむきさうり 石

種

全

三

さうりさうり 向ふ 服箱の折の事

甘茶

おと 新さうりまこと 壺をきて

氷壺

後若葉の香きくより 冨とけりて

祐之

さうり きてまて 仙母の只居ぬ

茶

三日月の雲間 浅きハル ね

壺

まきさうり さうりさうり きて波

之

全

敵少りさうりさうり くるりききさうり 先

氷壺

さうり さうり 居籍さうり 壺をきて

不由

床の垢未嘗修ふ吉のまて

壺

ふつふつと暮る高枝のうら

壺

越后うらうらと雨の月の暮

壺

ほろほろと先づさうつを

壺

全

風雪の初よりまらや壺表又

如壺

雪の暮るの志しき梅

佳壺

雪消る雪の麓の年暮りて

氷壺

河り霧四五ねほろあはれ

四

松

秋もまじきな暮る月夜し

壺

遠景画もく寂の香つ

壺

全

日の暮や雪の夕や霧の暮る

氷壺

言ふ梅のころる系すら

乙有

雪の初より暮るのうらむる

佳壺

羽織の裾はさ始月より

壺

雪の月暮るころもく雪の暮

有

非あましく終の早費

壺

全

和まいつくし操時の危き初ま替ら

水壺

そむよふ向てまけりしる橋

吟囊

草ぬぬ若心かたふま守ふ

壺

人乃んて所る幸日鏡る家

壺

南むく二部を却て月のと

壺

そむきんぬる 祐おまう

囊

全

あおまふくくくく心産りぬ

花元

五

まの妻すそまをゆき梅

信前

終終おふあのみまわさて

水壺

月鏡の心まのよいきゆより

見

ま子の後るも月の鏡持ぬ

壺

終る梅お喉一そ年の橋

壺

全

おまの心音やまいつかしの茶

文種

おまをうしうのよまをさる

水壺

くく音ふ海若瀬お海を逢替て

文甲

もくしんきん ねんしん

備室より栢と志のしるしの月

富のなみちのまくに海つく

全

解ほくも伸しぬるや栢の花

春候より水邊の西月

仕立舟ふ矣らる候より事さげ

石乃神門のさゆる三圓

るあよいさしん彩のまつるさり

六

きくも死せんきふちあはる

全

日と云い入てゆくし志の中

流るる雲あり 雜子の一歩

小細まき 志のけゆる 喜ちまや

むしりふかふる 衣今のもる

つるしりの海をのちとる家月

むしるあまをくもあうさ蘇

行

喜

里

龍足

水壺

全

足

全

壺

有 森

水 壺

全

森

全

壺

全

梅の子の盡すれ候しや老の女

氷壺

雪のふりかへし舟の帰

祐之

雨一發ゆりみ雪さへ川らるる

甘茶

雌一羽をわらうる

壺

月をんらとのゆるふあさ取

水壺

仰々ふくも堀立の岸

茶

全

梅を雪にふるふ女の盡せしめ

祐之

七

餘雪をまきまきし後の酒

甘茶

徳島の白豆窓雪ふ透りて

水壺

あとのみしうさかおのり列

茶

在りの原よりいづ 終 務

茶

雪ふりかへし川の流る候

壺

全

降幕るるや折る雪りより

水壺

日は一水の折るるは 池

其壺

茶をぬき茶壺あふ煮ゆ

水壺

花入らぬの味はさき
月影ふたふたの
おまゝにて 肝さす外
壺

子起の障子かき 福さう
文 里

此来も馬寄の重子と信じて
氷 壺

年一先くく 酒よるおほ
月のおめ 松と 蔭さうくさ
八
後 甲

枯木をまぶす 梅の志のひき
壺

初夜のもくく 酒さ
香 芸

えす 治まわらる ち 橋
氷 壺

吾治の 志のふたふた 振分
壺

山の 花さかしく 月を 打うさち
壺

思を 治まわらる ち 橋
壺

南むく一村きー梅の花

氷毒

候そ茶屋も其の賑ひ

龜水

祖受の奥のしと今ウさて

佳節

神事一々終のそふ福なり

臺

八月のひびく月の静ふよふ

水

酒をしめとて送るけし社

節

全

月をうらむ地のゆるむ和や梅葉る

波路

年一始のあはれす意の法

九

如白

根袖を羽子奪ふ売ぬ子突て

氷毒

却とくう表口のさうやう

形

日暮りのうらひ心あそ引あらし

白

伊妹のめくあらしひくく祀

臺

全

梅の香るやのあはれはの庵をあや

如白

替はけいさお喜せやさ甲

氷臺

初音物送る候り札さうて

波路

くしとる始もあらしくしとる

白

目くくさしき月一風よさ

うし〜ゆ舞よし〜ゆ〜ゆ

全

のけき〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ

雲の影りよは〜ゆ〜ゆ

ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ

箱目き〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ

空乃清〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ

〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ

+

喜

喜

氷壺

蒙雅

佳節

喜

雅

喜

全

る青や馬ものゆつむゆ〜ゆ〜ゆ

財出〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ

きり分る五万束後〜ゆ〜ゆ〜ゆ

〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ

月々ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ

箱入〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ

全

あじ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ

氷壺

嬰正

喜

喜

喜

喜

喜

氷壺

喜のゆきし 試乃 旅

幽止

白魚おいつりまうと程の

乙五

登月と終る 村松川の

壹

月除けの 簾持うて 新の月

止

浪名 志へて 志平の 頭子

五

全

胡月の 空りふ 岨や 梅の花

在尔

志へ 美のど 村の 川を 渡る

氷壺

梅子 赤く 喜々 人々の ういし

梅 花

十一

笑 魚を かく 年々 ありの 妹

尔

子 苗 振の 浪 既 あく 仕 出 登

壹

坂 こん ちの くる 八 寺の 面

首

全

喜 しい 花 みる 梅の 意

壹 函

芥 菜の 田を 喜々 する あり

氷 壺

浪 なる 我より 舟を 膝の 末を

芳 草

子 せり を 泣き 初めの 泣む

函

春 け みる 月 入の 懐く もの

壹

叫くやうに戦くかろや

草

全

浮沈ある木犀の自ひう車

氷壺

月澄そく我意のあと

柳圃

衣うつ北のたより風流てし

壺

小燈とけ丁をほきまのじ

圃

此まら急位の集ふ船をまそり

壺

日永ろうるまめ枝をよき

圃

新仙

十二

白泉や佃の松のまらうを

妻湖

まらうをくぬき枝乃泉

文孫

まらうの松初冬のほく流るる

氷壺

九柱をくぬきまらうを

柳

まらうをくぬきまらうを

柳

まらうをくぬきまらうを

壺

枕細のせまも松の壺

柳

まらうをくぬきまらうを

柳

ひらつらぶるまらうをくぬきまらうを

壺

はに糖きくしてむうの我糖
胡、信のこらうも回しよきしに
傳る、交合う、ゆる傳仕合
去、學と、傳し、こらうと、言の月
を、園、庭と、獲し、信のつらり
け、こらうと、病家、早のよ、さる、何と
精、多の、水の、海、老の、具、其、養
皆、う、こらう、保、考、さ、う、り、ね、ふ、力、さ、う、
の、お、う、あ、う、う、ふ、里、お、信、ひ

十三

湖 糖 喜 持 湖 糖 喜 持 湖 糖 喜 持 湖

+

湖のこらうと、糖、多、さ、の、志、さ、う、う、こ、
う、ま、い、海、糖、き、く、し、て、む、う、の、我、糖、
四、十、一、回、し、よ、き、し、に、
夢、う、そ、ら、う、湯、中、の、花、う、い、よ、う、も、
林、う、こ、ら、う、の、こ、ら、う、と、お、ま、あ、水、瓶、
さ、る、あ、う、う、の、山、玉、尾、乃、さ、
糖、う、こ、ら、う、糖、う、こ、ら、う、の、ま、い、

持 湖 糖 喜 持 湖 糖 喜 持 湖 糖 喜 持 湖

秋に定する候乃落座
 於一ツそつと給のわしひその
 常よりかき給へきと常ぬ月
 烟やうてつるの毛ももろそつと
 大勢ちきと信乃静うさ
 栞取の古地よとさきね所そつと
 妻のよりやの干指よりさ
 子とのつとつとさつとつとつと
 人唐とさつとつとつとつと
 吉 池 栞 壹 湖 栞 壹 池 栞

十

初日のひちも唐とつとつと
 朱新いといとつとつとつと
 竹門へあつとつとつとつと
 志とつとつとつとつとつと
 せつとつとつとつとつとつと
 松とつとつとつとつとつと
 非代もつとつとつとつとつと
 若とつとつとつとつとつと
 如 白

海原

波取

完取

津吳 兼史

龜水

在尔

在四籠 萬玉

如 白

清雪のさけくさる宿む葉の垣

嵩山

のよみくさるのよみくさるのよみくさる

きく松

年あやむるふしの葉の枯れくさる

可南

何きく年あやむるふしの葉の枯れくさる

山古

さくらばの葉のよみくさる

山台

よみくさるの葉の枯れくさるの月

高小

何きくさるの葉の枯れくさる

東枝

清のさけくさるの葉の枯れくさる

窓際

新々すくさるの葉の枯れくさる

春湖

十五

拾つじよきくさるのよみくさる

菊葉上人

人の目と葉をよみくさるのよみくさる

甲斐香芸

起くさるの葉をよみくさるのよみくさる

不凍

水くさるの葉をよみくさるのよみくさる

波洞

花くさるの葉をよみくさるのよみくさる

花見

葉くさるの葉をよみくさるのよみくさる

吾村

伸る目と葉をよみくさるのよみくさる

文里

人もくさるの葉をよみくさるのよみくさる

文種

初雪のやうなうららかなる

尾花 梅 花

暖かきうららかなる

山 梅 花

高き山をこえてゆく

雪 山

温泉の熱い湯

雪 山

初雪や葉桜の花のうららかな

赤 英

ふかき雪にまみれて

伊豆 其 致

うららかなる

梅 花

よの夜にうららかなる

士 致

井のかげのうららかなる

其 武 致 高

今朝の雪もうららかなる

上 佐 由 儀

雪のうららかなる

武 致 不 二 丸

雪のうららかなる

、 武 致 珠

雪のうららかなる

下 佐 由 儀

雪のうららかなる

、 雪 外

雪のうららかなる

、 之 武 致

雪のうららかなる

武 致 魯 雷

雪のうららかなる

中 山 良 の

雪のうららかなる

尋 香 梅 花

花はけし文のうらり花をりし

去説 不由

さしてさうわたり床りさし板

其窓

七葉のまをさうらふもさうらう

氷柯

清く清くおひきき初日の心

苔窓

下清く清く昔も思ひ山の梅

卓部

あうさうあも海を梅と月

永樓

ぬ月のあふみ山の上いし元

秋之

木のあふみ人と思ふやうさうら

十七

新甫

萬多しゆらん乃ふ木のそ

下依

月杵

仰けさうさう清く清く折哉

雪年

あうさうあも海を梅と月

古木

あうさうあも海を梅と月

林雨

あうさうあも海を梅と月

其心

其心

あうさうあも海を梅と月

梅雪

あうさうあも海を梅と月

竹塙

竹塙

あうさうあも海を梅と月

六槐

あうさうあも海を梅と月

甘葉

心常の志おきくく日く終る所
え日と 旅する人の 権柄 森
藤井やむのせえの 杉ひ 卯
ま〜〜やら〜〜 峰日お 山 松
美草や 中 花〜 香と 草 竹〜
和を〜 小 花と 草 小 色 丸
み 持の ち〜 ち〜 せ〜 ち〜 柳 井 城
人あ〜 人乃 持〜 丸 四 廿の 春
あ〜 ち〜 卯〜 ち〜 丸 ち 乃 夾

裁后 蜂史

乙 五

下 旭 富

試 風

清 砥

柳 砥

柳 渡

露 心

大 ち 未 足

初来のふ〜 ち〜 若く 卯〜 冬
引 踏入 ち〜 ち〜 丸 丸 柳 々 柳
美 草 ち 丸 丸 丸 丸 丸 丸 丸
平〜〜 丸 丸 丸 丸 丸 丸 丸
小 田 丸 丸 丸 丸 丸 丸 丸
あ〜〜 丸 丸 丸 丸 丸 丸 丸
葉の 花 ち 丸 丸 丸 丸 丸 丸 丸
ち〜 丸 丸 丸 丸 丸 丸 丸
丸 丸 丸 丸 丸 丸 丸
丸 丸 丸 丸 丸 丸 丸

山 信 屋

弘 池

仙 月

武 丸 仁 月

丸 友 友

丸 友 々

丸 清 責

丸 右 幸

丸 未 淡 前

考やしのこちあまし谷のあ
 と直々行くへまりめしき
 梅うたしふのゆき目しうんそ
 新まきろ板こきろやまさうゆ
 時こもふくへ戸口のまきの月
 出ししのきやふくも持ぬ梅
 市のころ甲の葉やまき折
 游りやあのみしくふてうし
 山かろや梅と垣柵の炭まき
 見外

十九

け原や板まよりと柱おろ虫
 百毒をさうしうゆる乙多うぬ
 海越しふ向ひかろりまろ梅梅
 喰つふふ胡夕ろあるふあひる乳
 いふさうしとえ胡のふあきひ
 古きてそ又一板やまきのま
 中津やまきのふくろる折糸
 ゆうしとまきとまきとらり梅の意

六

木裁

甘志

雪山

この仙

一水

耀旅

其東

市様

見外

葱玉

武苑

下松 壽山

樹石

伴天 一止

下松 夢枕

藥指

夢向

不豆ふさ時催つときくふ集り

夢松子

机ま修たこくやむうまきま

治子子

首の脣る糸をふとぬの板くれ

糸結子

梅さくや人よかまる山の道

夢子子

山甲や陰をぬくまきの月

嘉穀

ゆきふくわくくろきふをひるる

見高

一吹のあふぬふ風や伝建かきり

弘美

板さるや雪ふ初報のゆく同

茶瓶

骨たけふまきふ籠のつ物う沖

風月

那の梅や日く匿くれハ月のま

芳草

うとふまもも月及えまお道すうら

早楓

道兼や力のふまをむ根す結み

早南

早了ふたさ人のあふや玉のま

早友

柱もしこくやうふまうりや飾竹

花條

市坊ま坊めくれまらるあふい

波玉

梓そりやまきく時海と一ト帯

揚芝

園思を修りまうくや若衣始

波洞

初馬若のうくやうまうり

若山

朝花もう花しきむのちりりれ

信元 朝水

日の初や百々を花の下と待ち

連止

庭木も待てまひさうと夢さうし

武元 市笠

春くとも月を夢むむ山哉

雅琴

此し花のるを相うてさし折

素文

美折くも花の初を春の水

卯水

いさかきも夢さうり花の夢さう

波右

あゝ花もまゝれ一輪福来夢

單紙

うら花もまゝれ心安んれ花来山

片天清氏

干二

人とあふ夢くもむゆ千うれ

宋 抱

在の初花の下はむ江乃夢う

越后 花 死

人去する乃花はくもや夢さうれ

武元 壽 匠

糸も夢さうあふりの初や花の夢

上野 一 法

ちくまけハ花もあふや夢のあ

、 鶺鴒 花

和夢さるる花もあふや夢のあ

伊豆 松 宇

物日めく人の心もや夢干涙

、 如 栲

も面エの夢もあふや夢のあ

、 米 久

河て夢のつくと夢さうの桂

武元 雨 文

田代りやちうなりう向橋よ 山 素山

法堂や清くてもささ障ぬすく 山 此一

あふふい巻を巻ん庭りうね 山 雲舟

静待も一雁をぬさるそ梅の燕 山 下障水

いく甲の人よまゝ作てちつ務 山 石丈

持るるまも古巻のいふひう車 山 魚水

一巻をぬまう引るる柳うね 山 真水

巾障やけりり先うねのいる 山 有雪

雪るるまもあまはるあまも雪中 山 上野乙

三二

美水や雪乃よりのいふく 山 雪山

霧合松して巻てるる雪うね 山 六雲

古衣いと持るるまも一日裁 山 雪泳

格うくくしてさういふく 山 雪く

持るる雪うけりる雪うね 山 雪林

梅咲く雪や雪うね 山 雪文

雪れくく雪うね 山 雪雪

雪細乃雪うね 山 雪月

雪すらの雪うね 山 雪休

ぬくり〜と答そとらへ福素早 半陸 換電
 小庭系ちいさなよりそいも〜るく 、 礎松
 居箱の香や雪の裾いとらる初め 、 枕園
 身〜ふ寝る年姑やゆき先 、 乙溪
 川雪や雪のきくんの言一夜 、 山呼
 田へ移る月〜後あり啼かたの 、 兔枕
 捨つむやう〜ふば〜る乃言 、 龜池
 吉人々お奏あ〜〜ハま〜る南 下陸 桑弓
 赤〜のま〜と昔ふり〜〜〜 雪 、 以見

平三

花の事身衣と老の曠無哉 武尾 歩月
 人多〜却〜無〜る 難考うれ 上野 申溪
 う米うあふゆ〜を〜お〜く〜出〜候〜ふ 下野 斗与し
 山形のま〜る川やさら〜魚 武尾 波嬰
 初市や横町〜〜〜つ〜る人 、 波指
 有〜ま〜〜〜〜〜〜〜〜〜の〜 伊豆 菊池
 ア〜〜〜の〜〜〜の〜移る〜生〜うれ 、 乙野
 ね々香を思〜〜〜むや福素早 出羽 群母
 美入の海〜〜〜川〜洗 系 鳥岳

洞夜ふゆもろんち梅のつゆさき

節子

こころもあはれおや松乃志

山英

夕ほふかきつら梅のむ

知子女

さきさきやうしつら梅のむ

菱實

よくさふゆうしつら梅のむ

半世 東屋

松の志ほやまゆつや胡日新

陸奥 松屋

梅つらうしつら梅のむ

長河

およ入くま外志やむらう

唐詠

さつしつら梅のむ

千四 雪富

つとせのちつら梅のむ

伊豆 菴雪

梅の志を介いかにさか梅垣

半世 可屏

志と梅のあや人どめまえつら

武花 玉露

梅つらうしつら梅のむ

下伝 壽富園

ちつらうしつら梅のむ

春月

梅の志を介いかにさか梅垣

一亭

梅つらうしつら梅のむ

下野 季宗

梅の志を介いかにさか梅垣

六婆

梅つらうしつら梅のむ

武花 香月

午時さしと 遠きと 候む子むか

下野 栄 欣

宮持や ぬるる 藤そと 藤そと

半橋 三 様

初ささや 志持し ちある 春の友

武尾 隆 慶

ふまむ 志持ある ちありし 初也夜

、 兔 雪

きのし 志持し 志持し や山ささ

城后 竹 文

暮る月し 木の 回ひ 志持し 軒

西條 由 儿

侍人乃 小志持し 志持し 志持し 花

志持 志持 志持

志持し 志持し 志持し 志持し 志持し

志持 志持 志持

志持し 志持し 志持し 志持し 志持し

志持 志持 志持

十五

井のあき 志持し 志持し 志持し

松 中

舟とよし 細し 志持し 志持し

米 子

静く 志持し 志持し 志持し

一 雨

初ら 志持し 志持し 志持し

貞 産

志持し 志持し 志持し 志持し

松 下

志持し 志持し 志持し 志持し

一 向

志持し 志持し 志持し 志持し

志持 志持

志持し 志持し 志持し 志持し

松 山

志持し 志持し 志持し 志持し

松 尾

玉の行ぬくも事たりや 徳さめ
愛せしは せうもく 新やを川橋
お蔭や せむしかりく 赤まき 経
お毒や やいふまき 木より つつ 粒
阿婆や 涙まき 涙も 胎のうめき
胎のまの ちりり 空よ 不魚うれ
川まや さつり 一人のまき する

め松
材山
厄山
已有
露文
外治

あまがらうつ 若菜をまき 内
あまがらうつ 若菜をまき 内

手六

まき 月日ら まき 月日ら

二十歳の妻を まき 内
父母のまき 居神の けうまき 母
福妻のまき 候うまき 赤まき
赤お子や 拾はし まき 塚のうら
清うまき 赤まき やうまきの 居強きまき
そのまき 赤まき まき 赤まき 赤まき
ひらまき 赤まき 赤まき 赤まき 赤まき
赤まき 赤まき 赤まき 赤まき 赤まき

是心
琴松
相前
不替
赤船
梅悦
熟平

るゆくむ 烟ニ何して去の石 半唐 翠二
あゝとすゝ糸のちりめや 初鳥、半嘆
細る湯や人待去り登をーめ、斐岳
虫やうさおけくくくまお日うれ 武元 梅泉

夢水舟中

まま〜や 歌よつかるふの雪、味業
かつめー枝あ〜とま米のど、棧豆
ききこゆや 登うむくる海女が、有表
その高やを中一 度々の蒿う野 多う女

木の岡から 風おめぬ〜 麻地酒 花見
いつの時のちりめを 加藤の 号掛ひ 雪高
思跡よいさひて 舟をささせり 静風
あぢと 換板めくや 木のそとさ 共寂
捨てけり 芥子と 藤ふふあゝ 乙行
そぞろて 人う 辻末や 麦埃り 菊池
日乃 露や 糸も 滑りき 舟耳字 尾張 夢地

淵むすく龜うつろふ花 萬子 甲斐香芸
 すすりあくおかしきさりかきあまこ 不
 ひくちみく早とらふ花 海とらふ 等一
 物おかしきすくくを啼く鳥 鶯女 妻花女
 夕立のおとや相伝ふのれと 秋月女
 ゆきふる雪よよく為つさぬうらみ 家美
 又雲々々そゑるれうきりれ 跡古
 子を思ふものもむききそ精丹うれ 三子代
 指さひの骨経てかゝれおひい 九江

手八

月のかゝやまのさけりぬき取せ 系精子
 夕立や夕のうきふ精中との 精中未
 まきく花あや木くの白ひ葉 魚玉
 心ゆくや海の中へし山家集 武元 五岐
 お記の跡よとらふとら 杜あ 芦洲
 若井のさくさふ正とや 加るり 衣山
 木おかしきおのさきりて鳥涼し 衣山
 高とらふのさけりけり鳥の花 尾花 羽海

子まゝくや山とん床の羨子交 信未 知 風
 後しりりり産のちんきか 上 文 意
 後宵や物さうしき砂も垣 文 意
 川ふよ共熱と伸く勢の赤 之 試
 啼りろのせつまよあ節くれ 斐 爽
 ね病する門もくもく秋樹うふ 試 風
 一ちうくま本よりつや夏乃雨 皆 隆 文 雲
 竹 鉦く新のうはるや 水 香 梅 栂
 不のくく人まの障や株よ縄 一 馬

ちう風や病せておる子のうつ笑 信 天 江
 考ふりり美のゆき一葉乃系 柏 病
 乞しる村さけ清く清く 下 松 信 眠
 以月々村よるを 一 隅 田 川 貞 翁
 うらりたる雲や門乃雲西面 曲 法
 流るねいあふささるる暑さうれ 倉 山
 正保しさかのや若のまの通るさ 季 宗
 痛きしきして 信 一 郎 玄 之 月 き 治 し
 遠越一の木新もろく樹乃月 出 相 江 春

岩角の雲かさむる庭う車
 下松亭梅
 舟の空の空けり文るまきみくれ
 落生
 以霞く浮葉よまらふ量
 春、め水
 信草一やるみううとさあの色
 東雲
 日の月又ぬあ色ま一画一鴨
 江月
 吹入る月う移るや榭り月
 友枝
 山姥之唐へ来るまら仏生云
 榎く
 麻里くぬと云つて雲を深くうま
 竹塙
 戸うう屋招や志ありく不ぬ淨
 三六完伍

赤あやるも大うとわらわと
 式元 千歳
 ぬきくくくくくくくくくく
 末 公茶
 底ふりやふまふ吹きくの花
 画玉
 ぬきくくくくくくくくくく
 柔史
 箱工始え一しりして今年米
 文甲
 糸ありのうまらひしりしりしり
 文枝
 けり林をわらわらふきくく
 唐芸

萩のあり 遊を 樹よりとるなり 出の 唯 風
 志保ししやみ 引るの志おいら 出 殿
 葉まゝもふとれり 葉のさるるれ 乙 箱
 よきそりふ 林より 竹の 柱うぬ 菊 池
 子合や 葉より さら 夕さく 路 陸 文 田 志
 白葉や 葉てと ぶれこも 竹 、 柏 菊
 庭くくの 向ふふ 乃るる 葉さく 車 、 五 葉
 戸一枚 竹て びりりの 月見 葉 、 竹 福
 葉 沼の さくさ 花を 踏り 乃 あり 香 城

浪杯の 志のさ ちう 似ぬ 志さ 葉 金 枝 子
 竹さく 志しぬ 子 拾の 竹さ 葉 武 藤 竹 圃
 白葉の ありふ えて 新さ 葉 、 友 子
 名月お 志りふ ちう む 志 葉 葉 爽
 花まう ちう ちう ちう ちう 月の人 成 風
 葉より 界 川 言 志 林の 志 志 与 志
 ちう ちう 葉の 葉 志 ちう ちう 葉 季 宗
 未 葉 ちう ちう ちう ちう 葉の 山 志 葉 陸 鬼 月
 流 ちう ちう 葉 志 ちう ちう 林の 水 、 葉 亮 尔

楠梓やけきさうふふらまき
 早合やわたりもやう及栲の人
 ちや林とちりぬおひの松乃亭
 亭うちや本くよ小くき山つふ
 夕風のあ〜りさうりきちる
 眼よ〜る林や栲く風の土も
 さ〜りの亭やま〜日の自入相
 い〜のや栲う〜るあ〜きうれ
 栲梓や〜りて〜る月乃山
 森山
 友妻
 左
 江月
 清眠
 ぬ水
 雲高
 栲用
 之き旅

三十三

栲梓や〜りサ〜る人〜人
 一旦ふ栲〜る〜りやうれ
 せ〜る〜る〜る〜る〜る
 昔出〜る〜る〜る〜る〜る
 さ〜る〜る〜る〜る〜る
 昔〜る〜る〜る〜る〜る
 栲梓や〜る〜る〜る〜る〜る
 ち〜る〜る〜る〜る〜る
 名〜る〜る〜る〜る〜る
 兄堂
 之武
 曲独
 下法 類記
 沙角
 車や
 浮知
 森菜
 江利 一男

岸霧の中や一帯江のきり 原注 三意

池さうり海くおろしや月のぬ 原注 夢丸

降ぬいさあやさのさりての川 原注 懐旦

[Faint bleed-through text]

後院寺田地の古樹影を清く 原注

海の中 原注

山を光もかきおこしり 原注 浄藤

[Faint bleed-through text]

[Faint bleed-through text]

[Faint bleed-through text]

移さや 原注 山

ま 原注 梅泉

後 原注 風柳

月 原注 野直

幸 原注 其致

志 原注 下弦 五 願

行 原注 一 信

家来のちたしとてん厚 奏

香芸

新和申おをうくせと池の南

お舟香庫

怪しくとちやおの伸日のつと

式若波月

形くくしと移戸をほつや事 漆

友故

さく抄申伸く日のさく若 奏

友く

あふやお月しを際あふ

草知

けしきしきしきしきしきしきしき

東受

あふくく 埜りぞけふゆ年哉

お石信水

さくしちやゆり花くも水色是

漁藻

三四

古曆十日の葉よ 仙とてんり

糸袴子

あつたしとちあふるや若の上

休鳩

あふくくしとちあふるや若の上

下注く 試

一本くくしとちあふるや若の上

春山

あふくくしとちあふるや若の上

眉山

あふくくしとちあふるや若の上

曲庇

あふくくしとちあふるや若の上

可儀

あふくくしとちあふるや若の上

至信

あふくくしとちあふるや若の上

木齋

井のききふりつろ 勢や守日私 戦后 野賦

清原のそと 和常列の海に如 野賦

木くらしや 雲を伴い 多おろく 孝強

山入り 甲ねかひ 巻る 小きうね 野

里より 川くらし せぬ 枝茂葉 乙勢

ちうきき 勢と日 和の木の葉か 菊池

新菰の秋をまふ 雲を 勢の里

雲を 勢の里をまふ 雲を 勢の里 兼女

さき 峰やしらふてい 赤と朝 永年

うせ 雲を 勢の里をまふ 雲を 勢の里 兼外

志つ 雲を 勢の里をまふ 雲を 勢の里 武山

神を 雲を 勢の里をまふ 雲を 勢の里 斐亮

雲を 雲を 勢の里をまふ 雲を 勢の里 兼外

いろよ 雲を 勢の里をまふ 雲を 勢の里 兼外

雲を 雲を 勢の里をまふ 雲を 勢の里 兼外

雲を 雲を 勢の里をまふ 雲を 勢の里 兼外

雲を 雲を 勢の里をまふ 雲を 勢の里 兼外

新清や作たのなるきくふり
 思ふはもほきく極とあるきく
 此の心も雪をくくまきく
 通るはこやうふまきく池の岸
 雪岸や不雪の裾をく相りき
 久しくふく雪の裾をく相りき
 雪の裾をく雪の裾をく相りき
 解つて雪の裾をく相りき

奥平
 きりし
 浅田
 武前
 味素
 相左
 後田
 愚山
 萬玉

追加

五粒とふきつて白く雪の飾
 ありは新柄して枝や雪の雪
 有るは枝や雪の雪の雪
 むきくは雪の雪の雪
 雪の雪の雪の雪の雪
 雪の雪の雪の雪の雪
 雪の雪の雪の雪の雪
 雪の雪の雪の雪の雪

幸江
 杜水
 武前
 古棠
 後田
 愚山
 武前
 素函
 千賀
 吉廣
 武前
 運牛

昔一ふ月日とちり及梅の花、集次、
 初一とま々ふと十月二日、下総梅桑、
 雪一夜くくねい、梅一喜、梅、
 石と石のふまされぬ、梅、梅、
 年の市、雲のやうふ、梅、梅、
 立、梅、人乃、石、梅、梅、
 打と一、梅、や、梅、梅、梅、
 是、梅、梅、梅、梅、梅、
 山、梅、雨、梅、梅、梅、

二十七

武蔵保内

上野

一梅

芽泉

細山

其梅

明治元歲
八重月廿五日

佐々木持之